

資料編

1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査（一部を抜粋して掲載）

第1章 調査の概要

1. 調査の概要

（1）調査の目的

日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題を探り、それらの課題を踏まえた介護保険事業計画を策定するため、課題の抽出調査及びデータの分析を実施し、第7期介護保険事業計画の適切な策定に向けた基礎情報を得ること等を目的とします。

（2）調査の設計

調査内容	国が示した「介護予防・日常生活圏域二一ズ調査票」に基づき作成
調査対象者	65歳以上の一般高齢者及び要支援1、2の高齢者
対象者数	1,600人 無作為抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収を実施
調査の期間	令和2年1月27日～令和2年2月14日

（3）回収結果

本調査の回答数・回答率は以下のとおりです。

圏域名	配布数(人)	有効回答数(人)	有効回答率(%)
全体	1,600	1,183	73.9

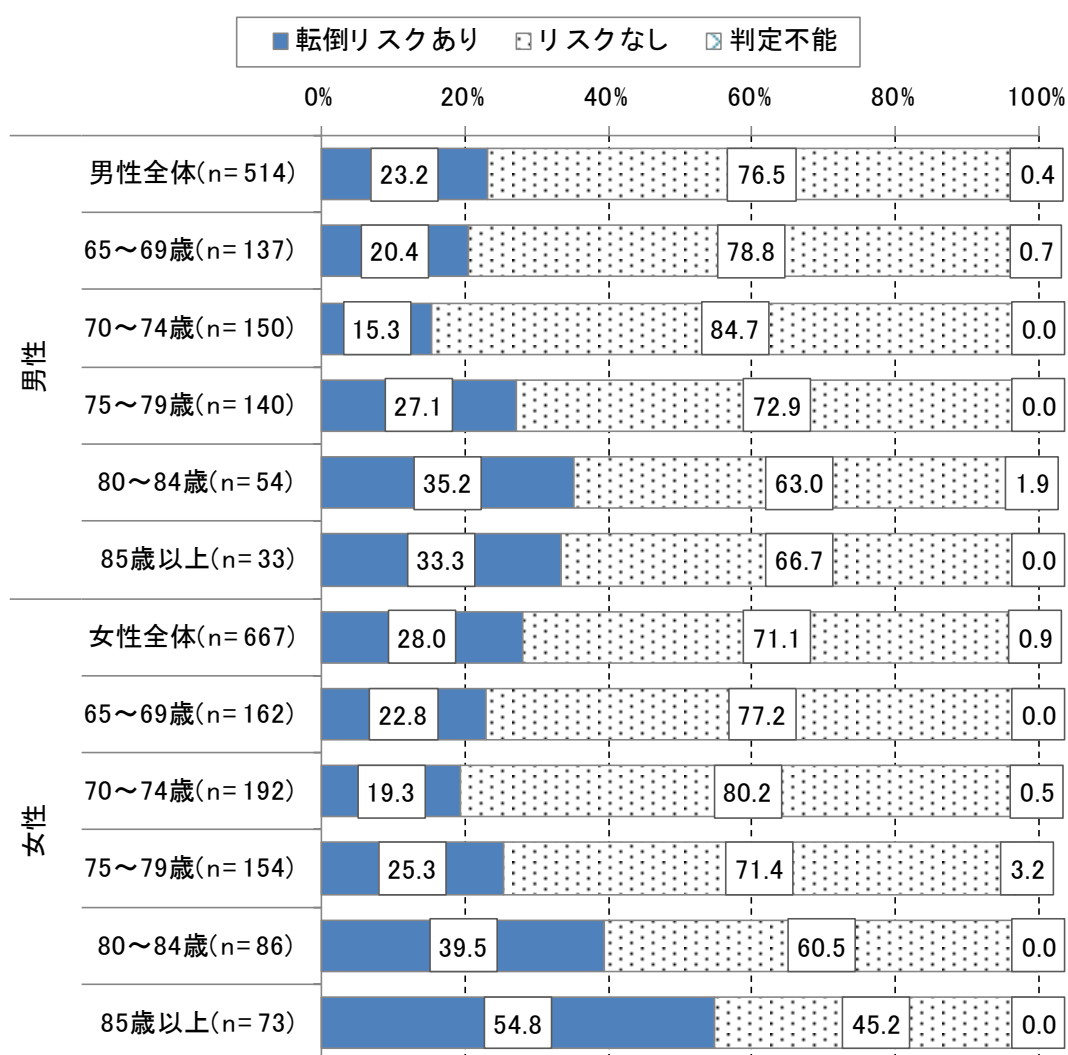
1. からだを動かすことについて

(2) 転倒リスク

転倒リスクの該当者の割合は、26.0%となっています。転倒リスクは道路の整備状況や平坦地の多さなど、様々な要因が分析結果に影響し、地域差が見られます。

性別で見ると、男性が23.2%、女性が28.0%と男性に比べて女性が高くなっています。男女ともに年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなっています。

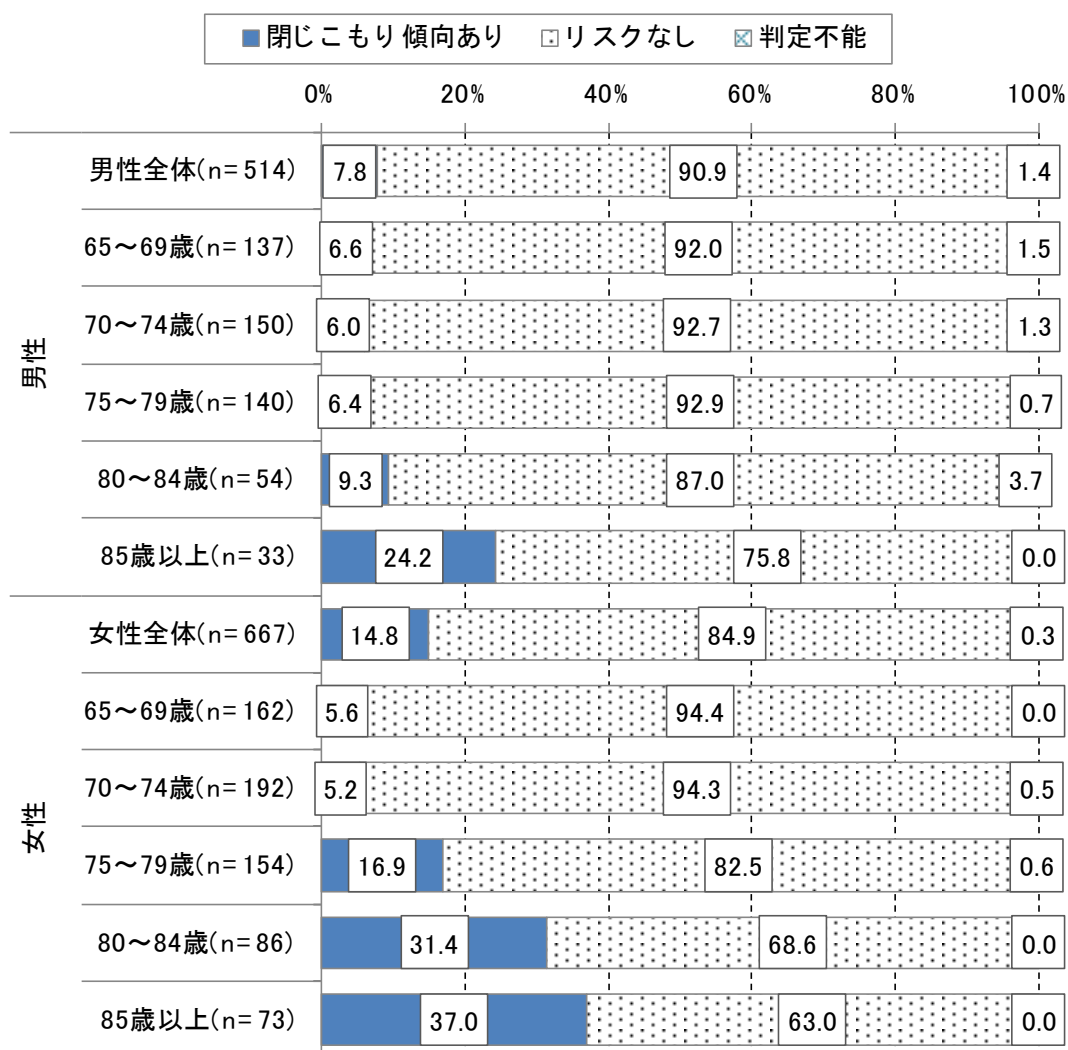
◆転倒リスク者(性別・年齢別クロス)



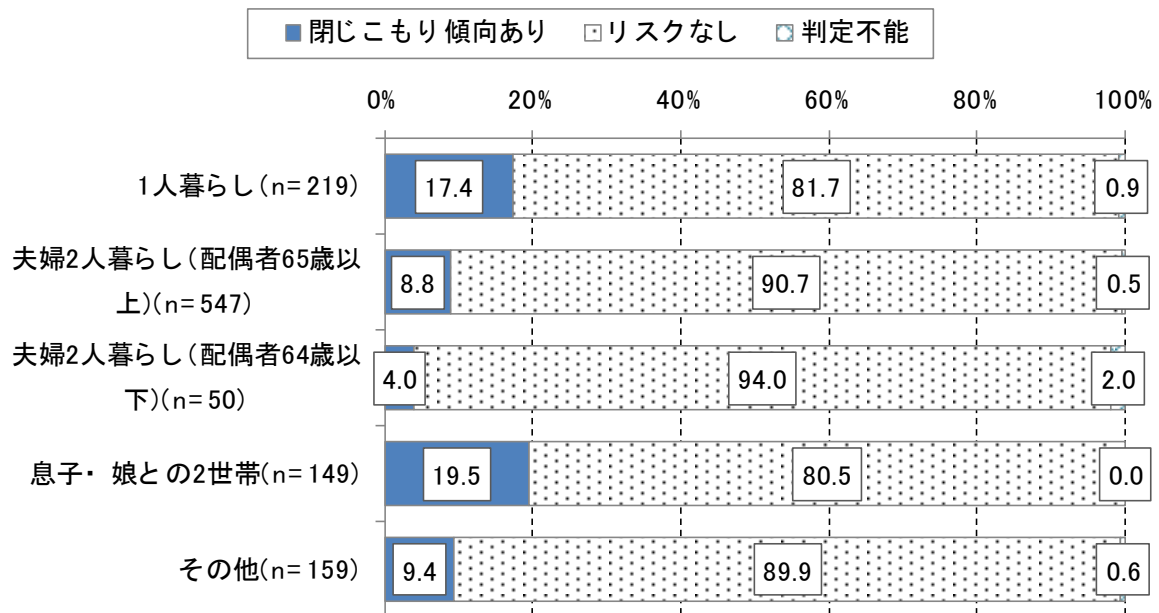
(3) 閉じこもり傾向

閉じこもり傾向の該当者の割合を全体でみると、11.8%となっています。性別でみると、男性が7.8%、女性が14.8%と男性に比べて女性が高くなっています。年齢別でみると、男性では85歳以上、女性では75歳以上から急激にリスク者の割合が高くなっています。

◆閉じこもり傾向の該当者(性別、年齢別)



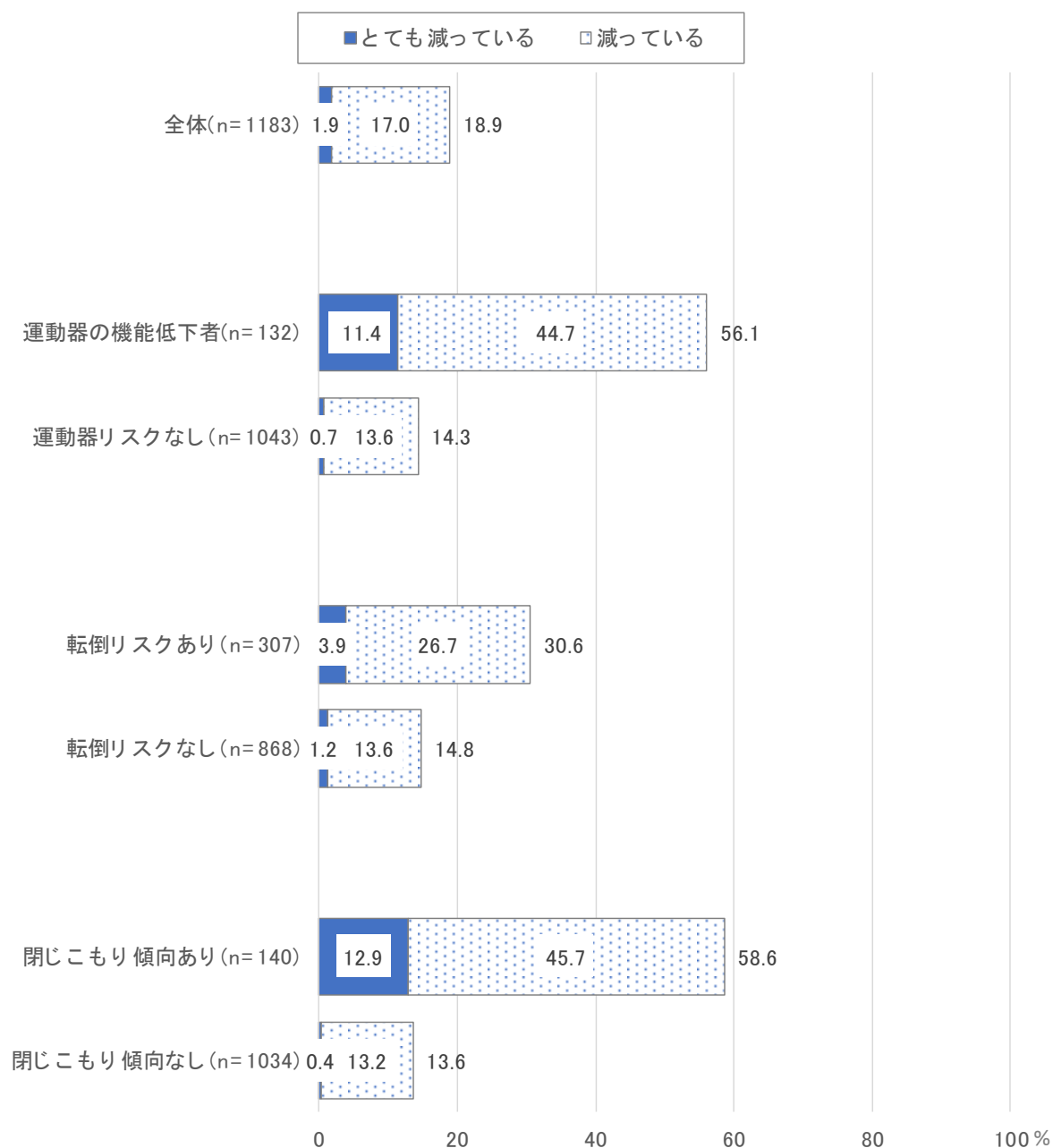
◆家族構成別の状況



(4) 外出回数減少

外出回数が「とても減っている」「減っている」と回答した高齢者は、運動器の機能低下者（56.1%）、閉じこもり傾向のある高齢者（58.6%）の2項目でほぼ6割がリスクありとなっています。

◆各リスクと外出回数減少の関係

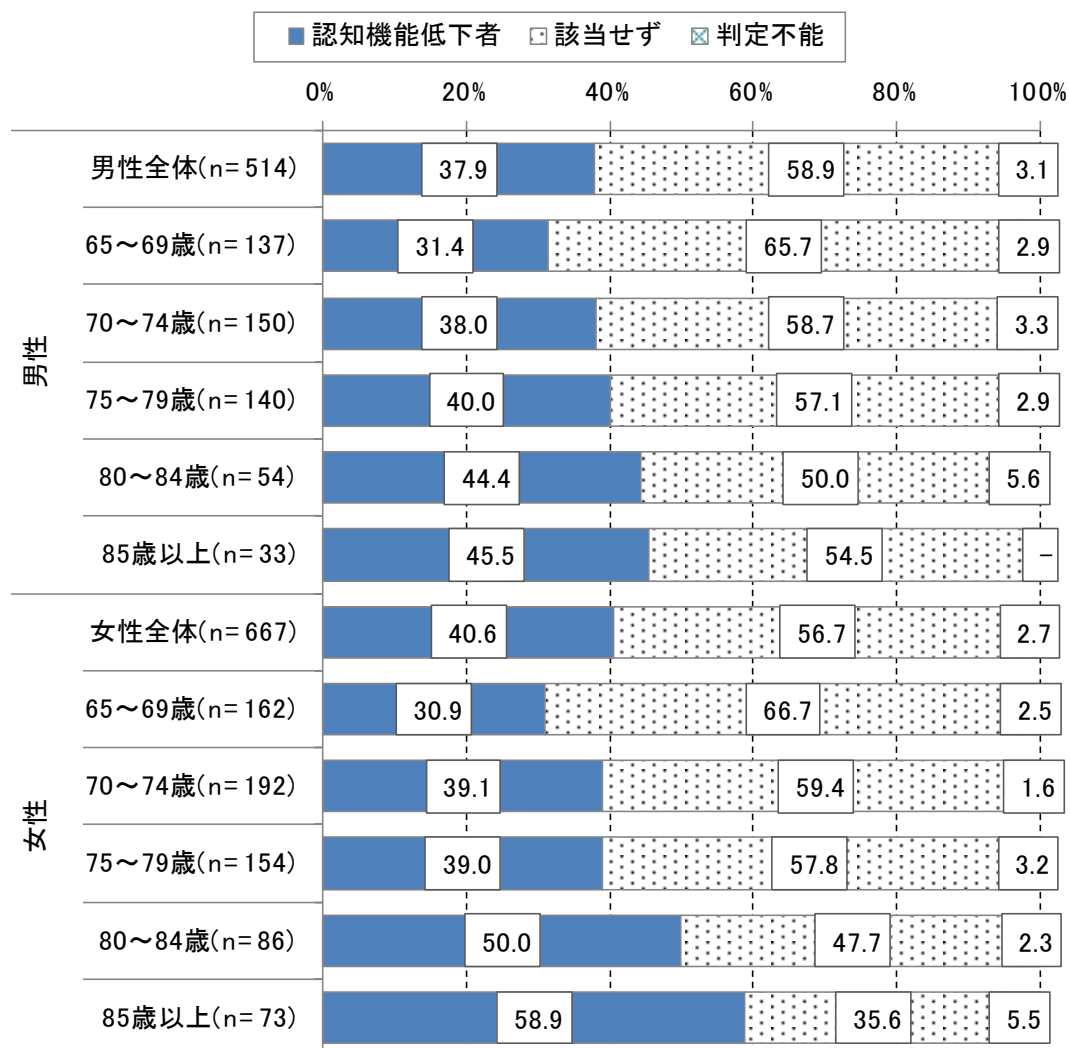


3. 毎日の生活について

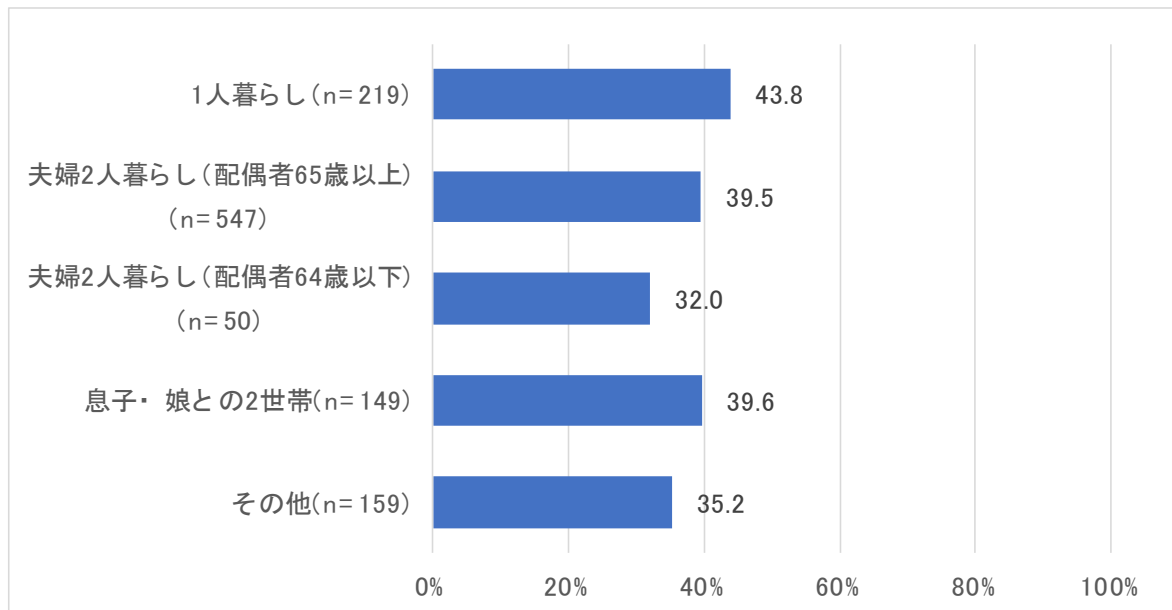
(1) 認知機能の低下

認知機能の低下の該当者の割合を全体でみると、39.6%となっています。性別でみると、男性が37.9%、女性が40.6%と男性に比べて女性がやや高くなっています。

◆認知機能の低下の該当者(性別、年齢別)



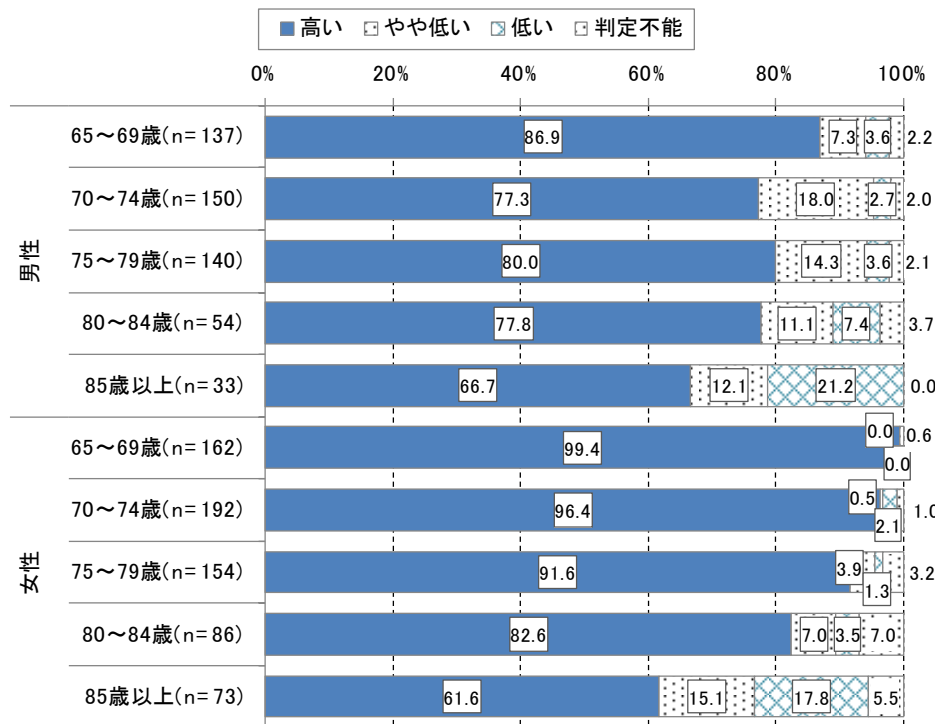
◆家族構成別



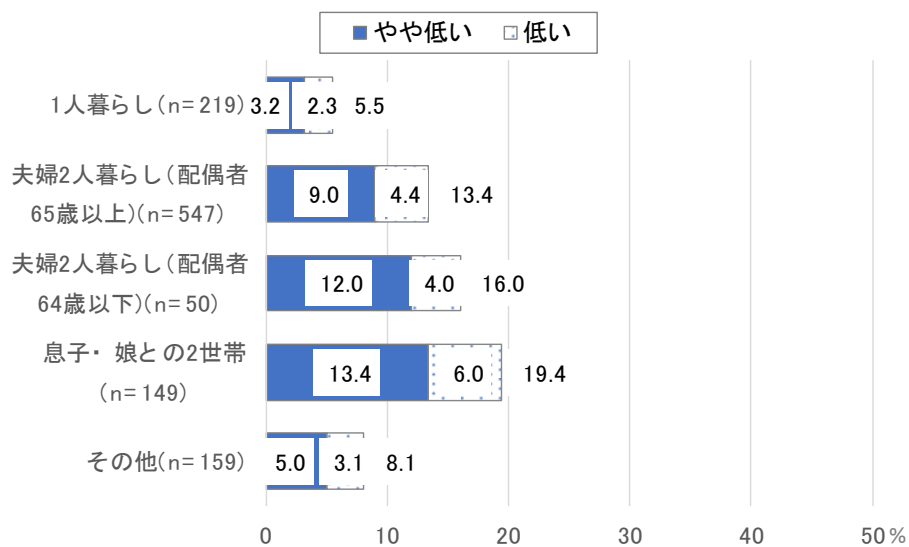
(2) I ADL (手段的日常生活動作) の低下

I ADL (手段的日常生活動作)とは買物・料理・金銭管理など、ADL (日常生活動作)よりも高い自立した日常生活をおくる能力のことです。I ADL の低下の該当者の割合を全体でみると、11.7%となっています。

◆ I ADL の低下の該当者(性別、年齢別)



◆ I ADL の低下の該当者(性別、年齢別)

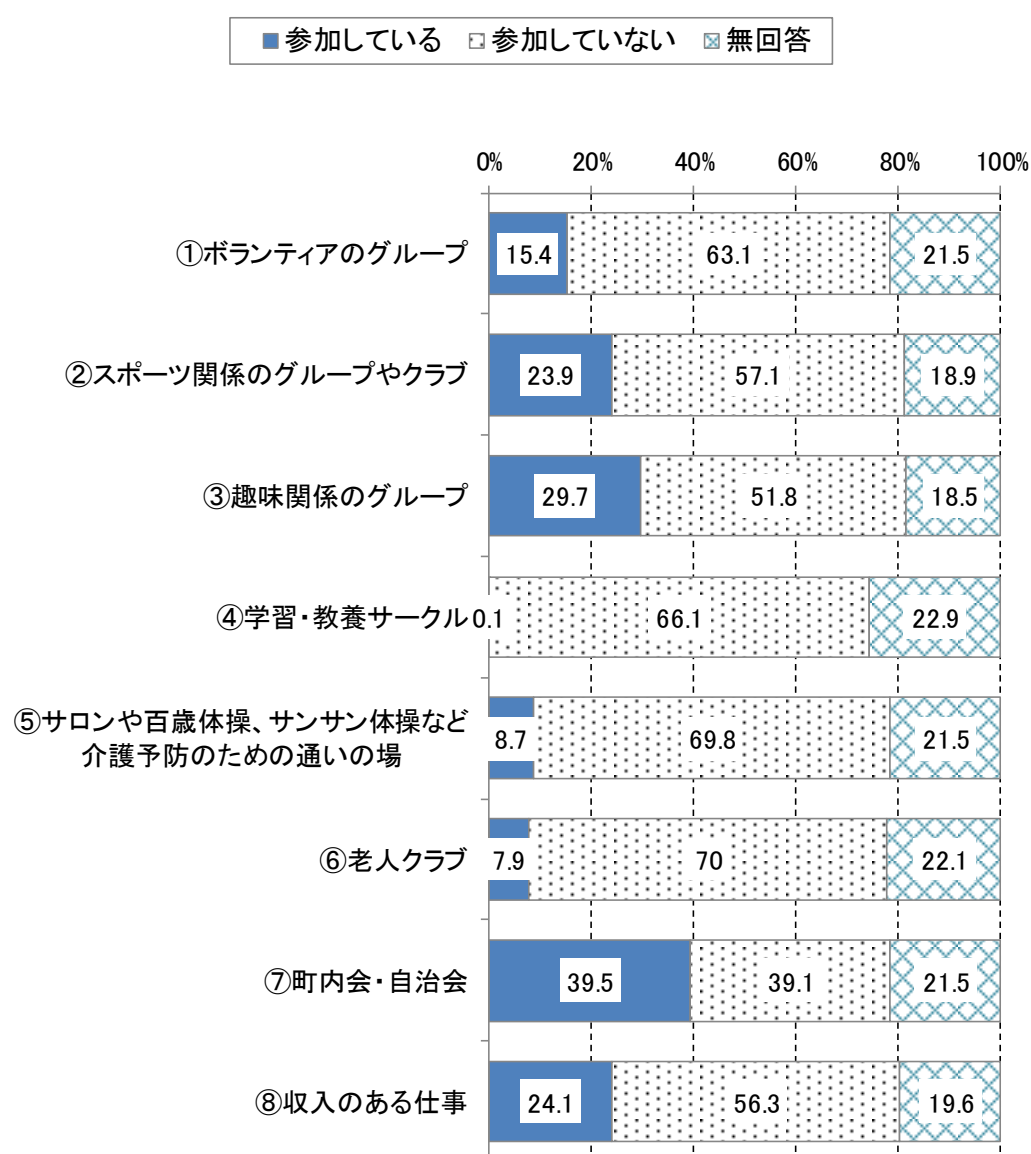


5. 社会資源等の把握

(1) 社会活動への参加状況

社会活動への参加状況をみると、「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」、「町内会・自治会」、「収入のある仕事」への参加が比較的多い傾向にあります。一方、「学習・教養サークル」について参加していると回答した人はほとんどおらず、「サロンや百歳体操などの介護予防のための通いの場」や「老人クラブ」について参加していると回答した人はいずれも1割を下回っています。

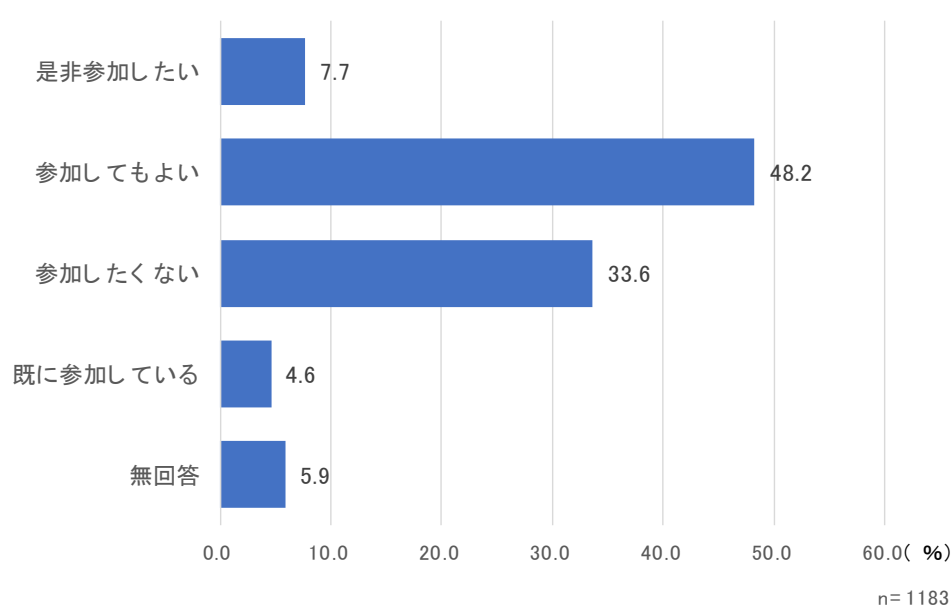
◆地域活動への参加状況



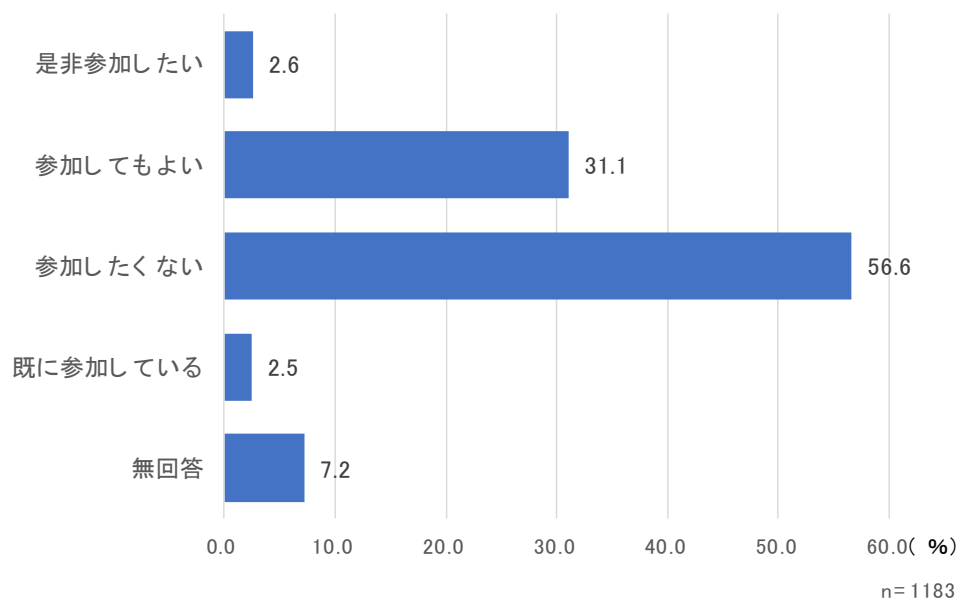
(2) 地域作りの場への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加してみたいかと尋ねたところ、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 55.9%と、半数を超えています。また、企画・運営(お世話役)として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 33.7%となっており、3割以上の方が地域作りを自らの手で企画・運営したいと考えていることがわかります。

◆地域作りの場への参加意向（参加者として）

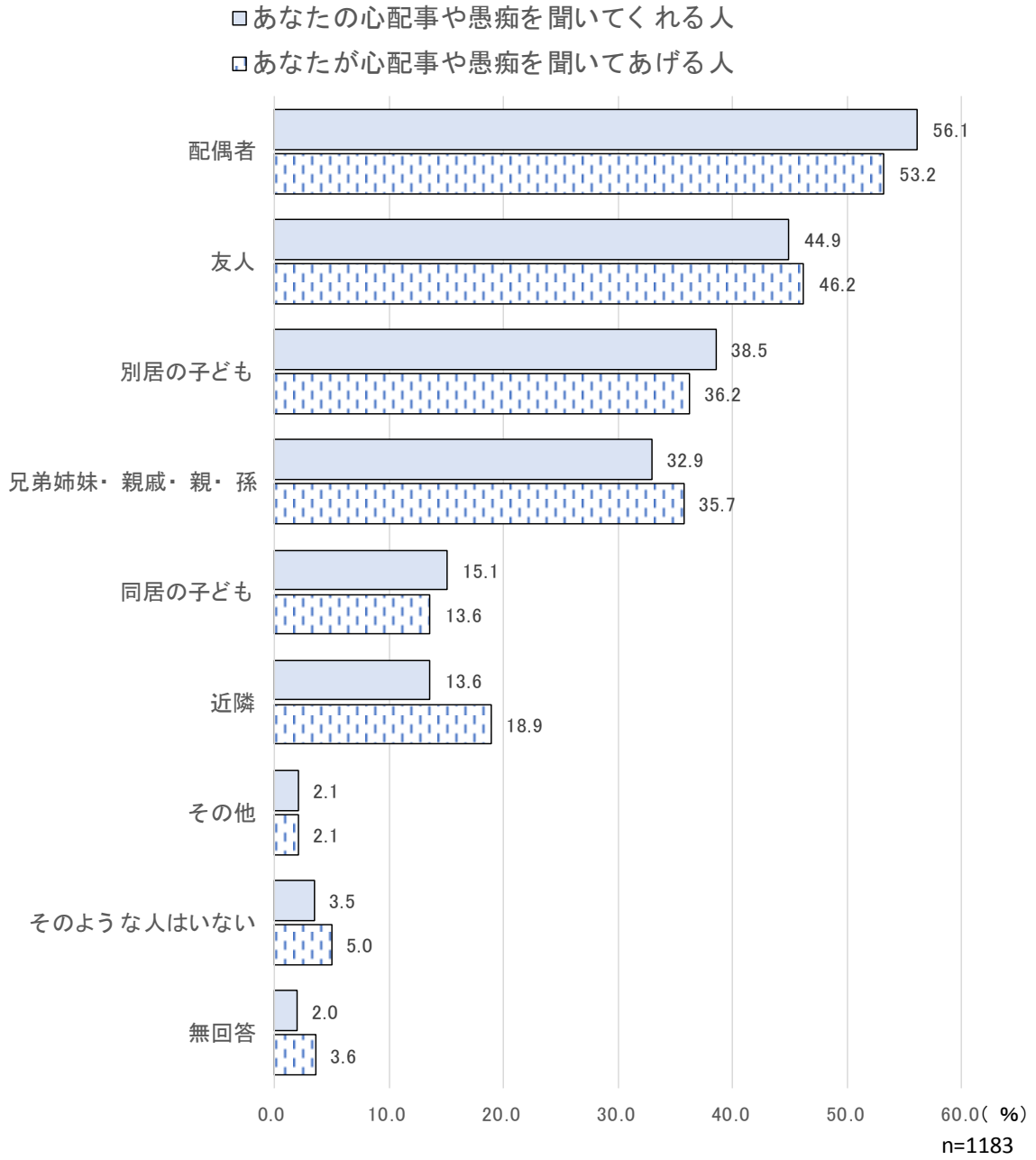


◆地域作りの場への参加意向（企画・運営（お世話役）として）

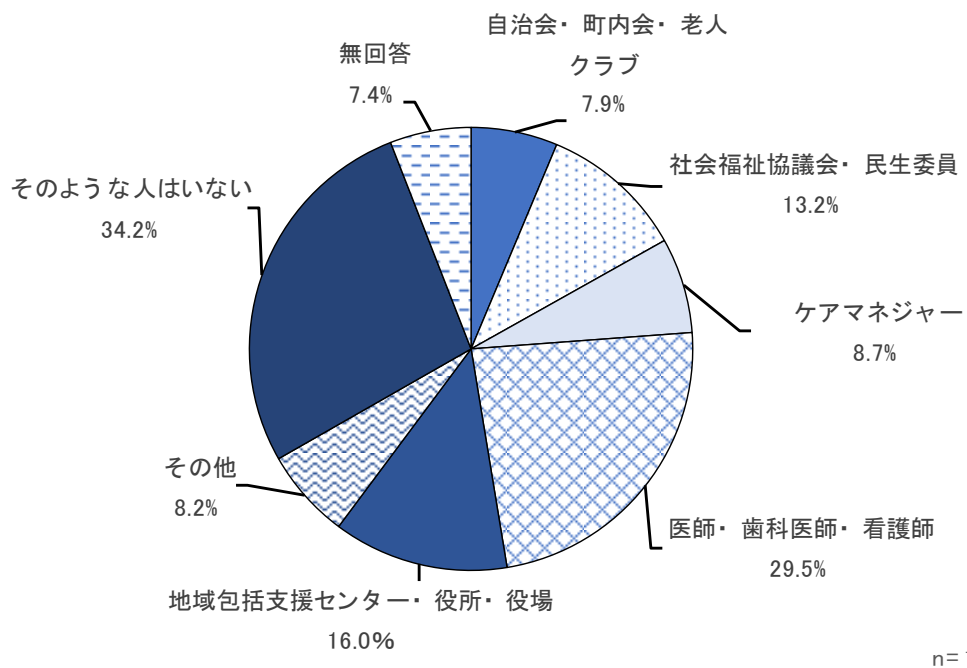


(3) 助け合いの状況

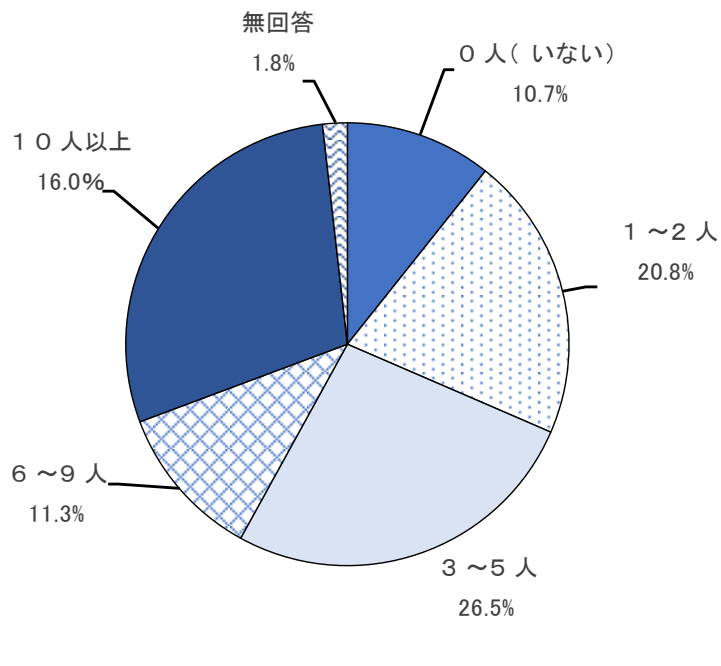
◆心配事や愚痴について



◆家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手



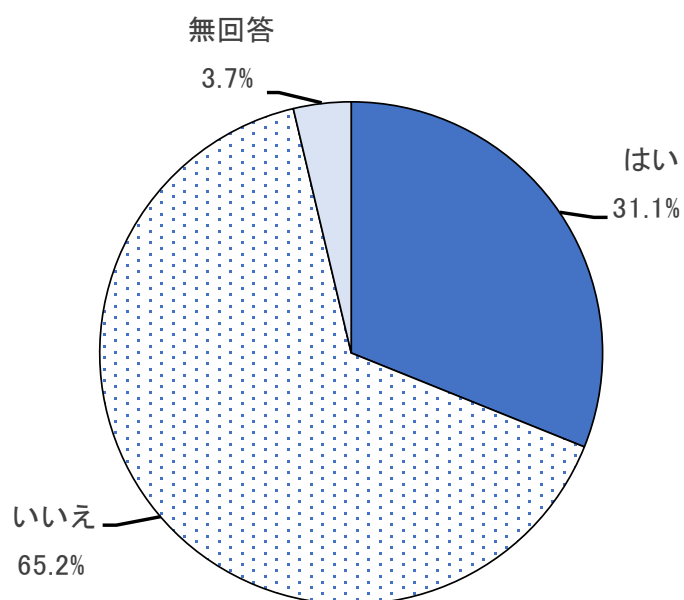
◆過去1カ月間に会った友人・知人との関係



6. 認知症に係る相談窓口について

認知症に関する相談窓口について知っているかを尋ねたところ、31.1%の人が「はい」と回答した一方、65.2%の人は「いいえ」と回答しています。

◆認知症に関する相談窓口



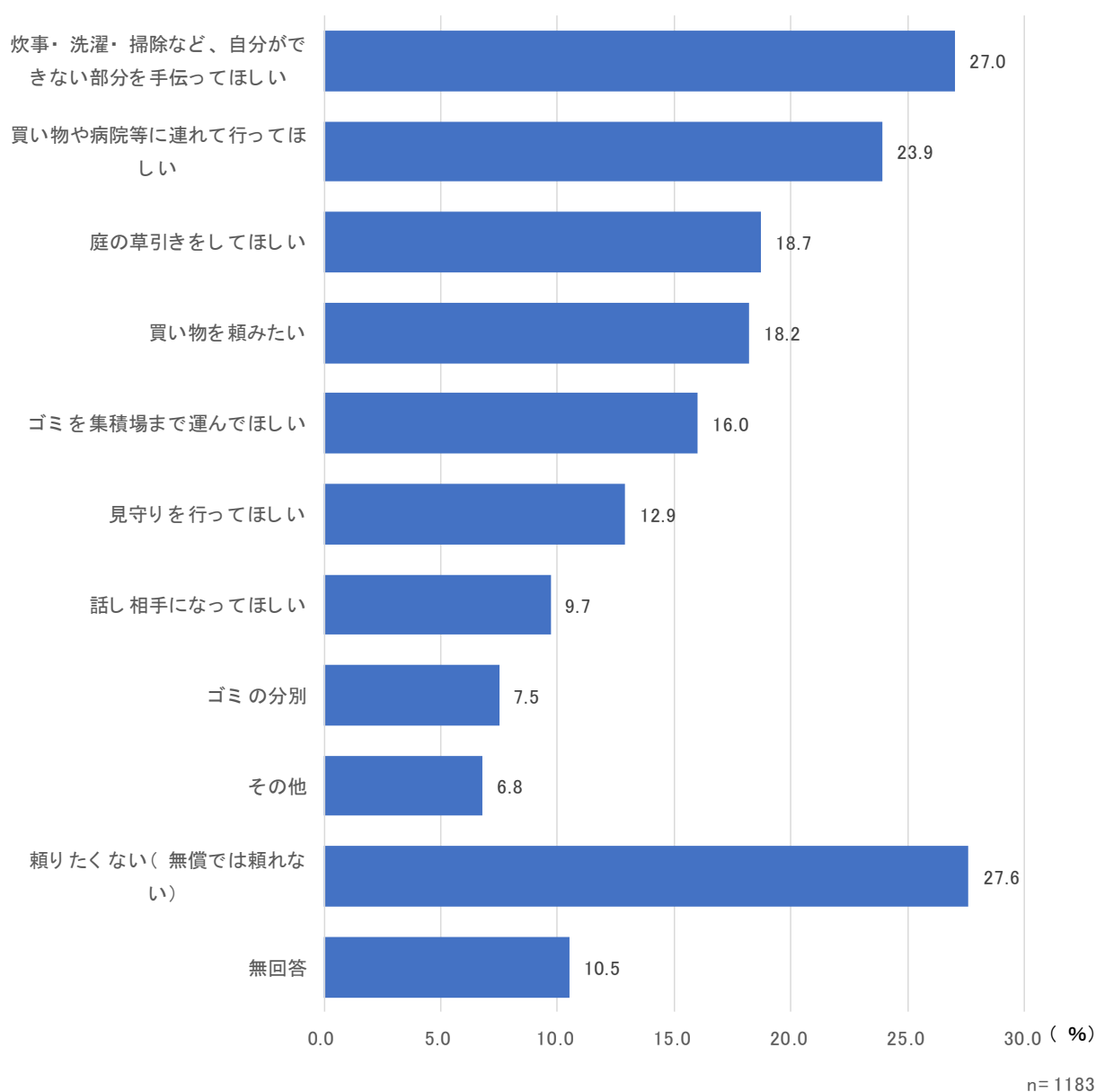
n=1183

7. 今後の暮らしについて

(5) 困りごとについて頼みたいこと

困りごとについて頼みたいことを尋ねたところ、全体の61.9%の人は頼みたいことがあると回答しています。その中でも、「炊事・洗濯・掃除など、自分ができない部分を手伝ってほしい」と回答した人の割合がもっとも高く27.0%となっています。次いで「買い物や病院等に連れて行ってほしい」と回答した人の割合が23.9%となっています。

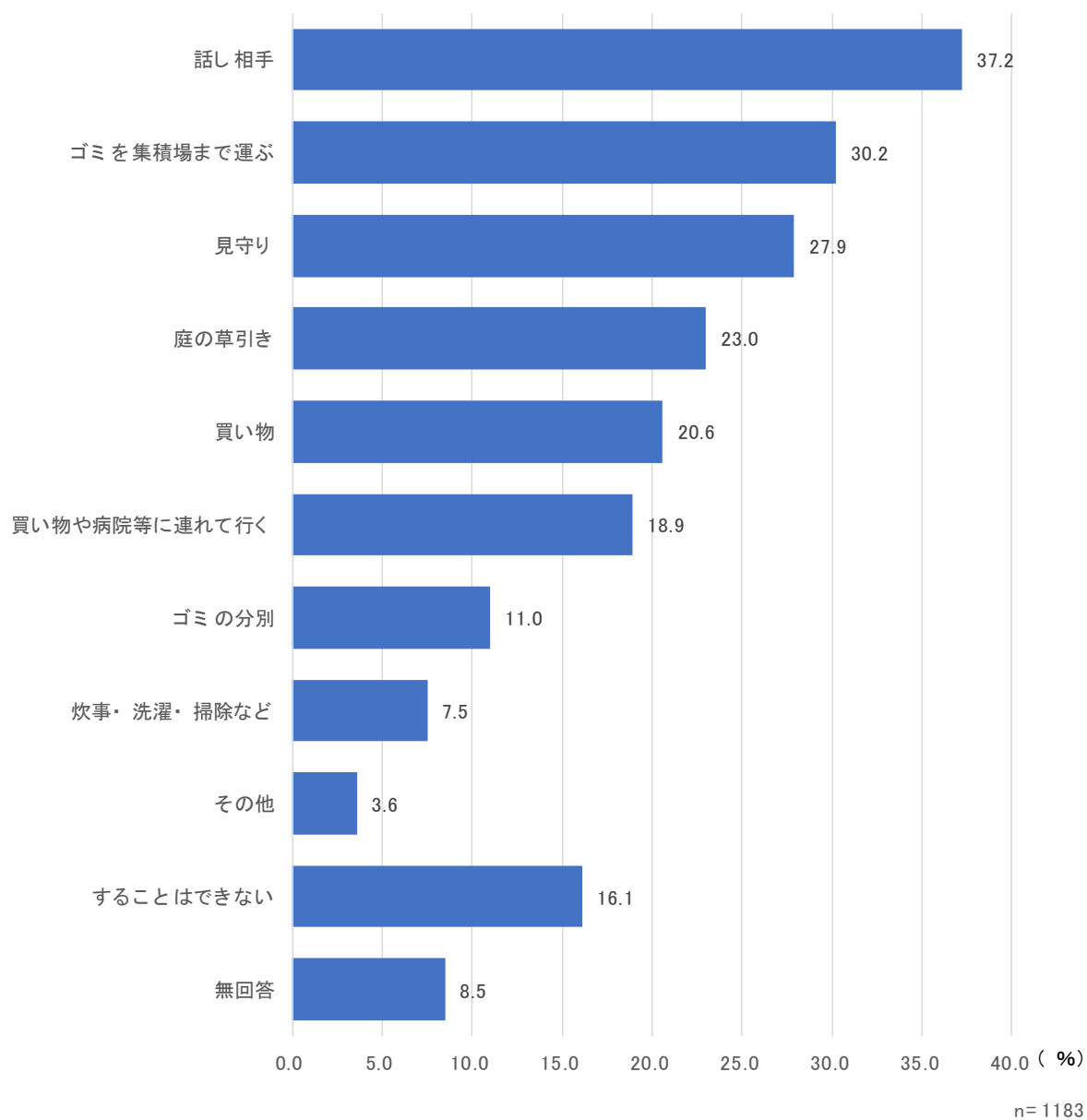
◆困りごとについて頼みたいこと



(6) 困りごとについて手伝えること

地域の人困りごとについて手伝えると思うことを尋ねたところ、全体の75.4%の人は手伝えることがあると回答しています。

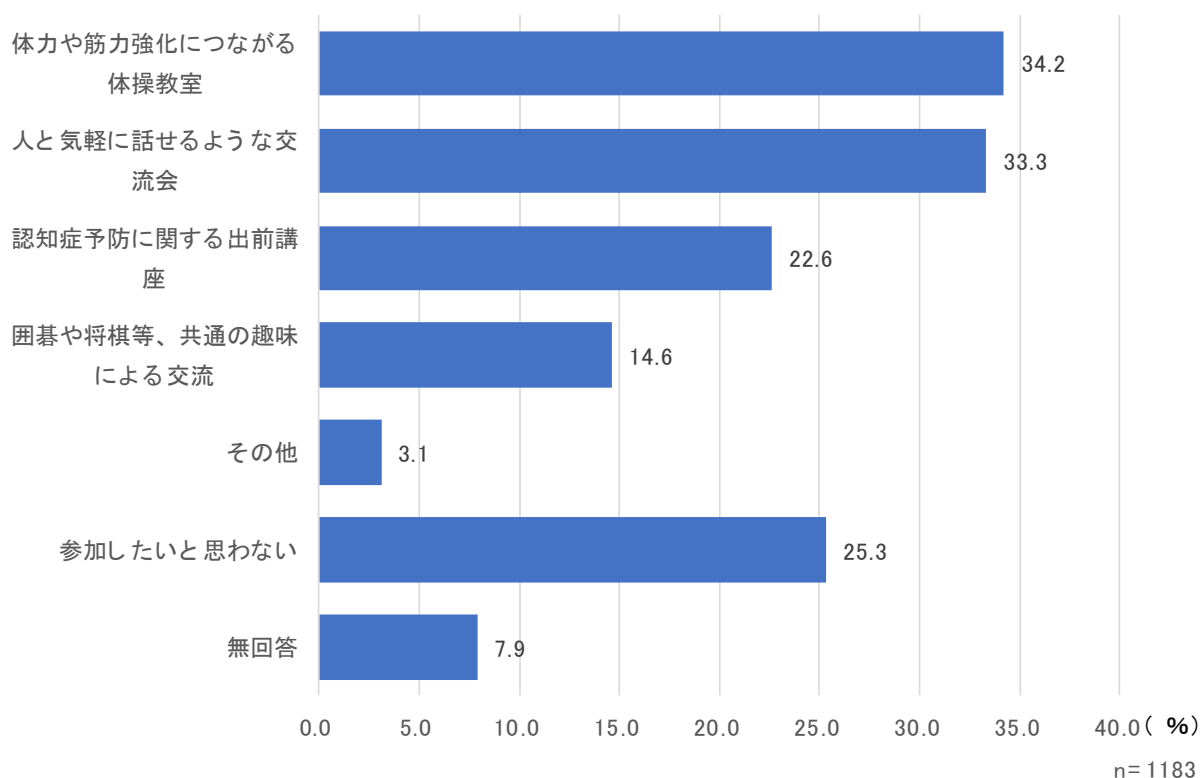
◆困りごとについて手伝えること



(7) 催しへの参加意向

どのような催しへ参加したいか尋ねたところ、全体の 66.8%の人が催しに参加したいと回答しました。「体力や筋力強化につながる体操教室」と回答した人の割合が最も高く 34.2%、次いで「人と気軽に話せるような交流会」と回答した人の割合が 33.3%となっています。

◆催しへの参加意向

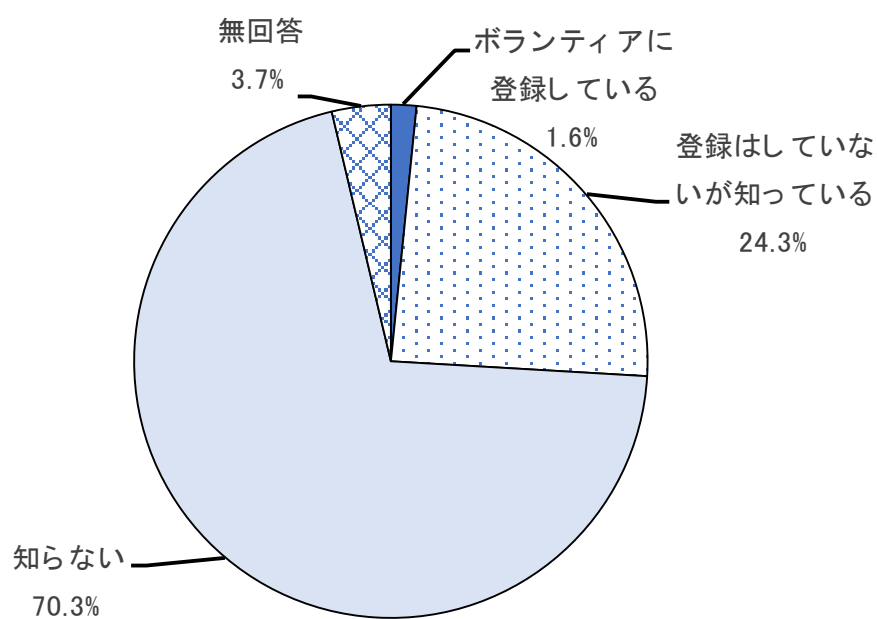


(8) 下松市の実施する事業について

①介護ボランティアポイント制度について

介護ボランティアポイント制度について尋ねたところ、「ボランティアに登録している」と回答した人の割合は 1.6%、「登録はしていないが知っている」と回答した人の割合は 24.3%となっています。

◆介護ボランティアポイント制度

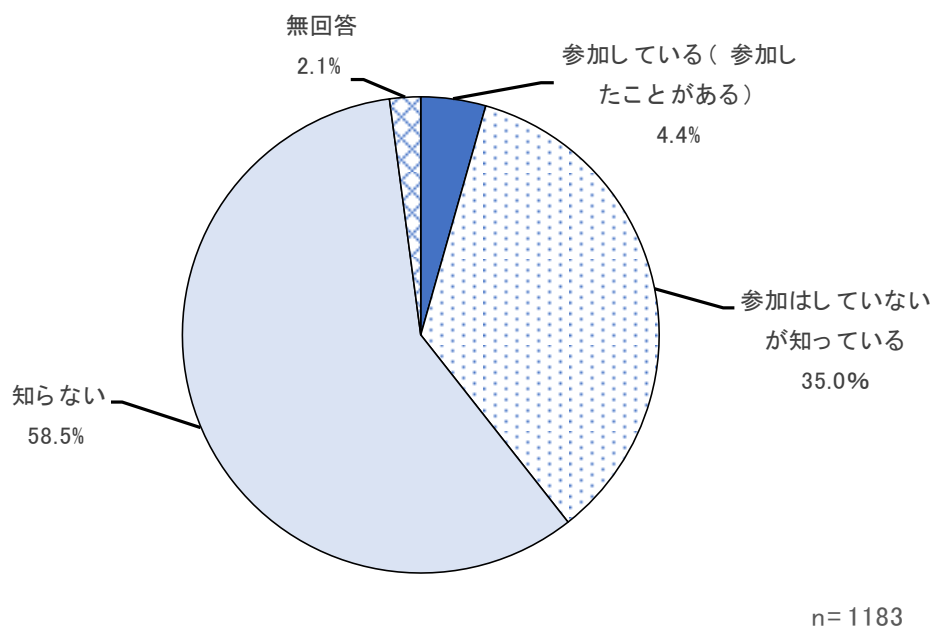


n=1183

②いきいき百歳体操について

いきいき百歳体操について尋ねたところ、「参加している(参加したことがある)」と回答した人の割合は 4.4%、「参加はしていないが知っている」と回答した人の割合は 35.0%となっています。

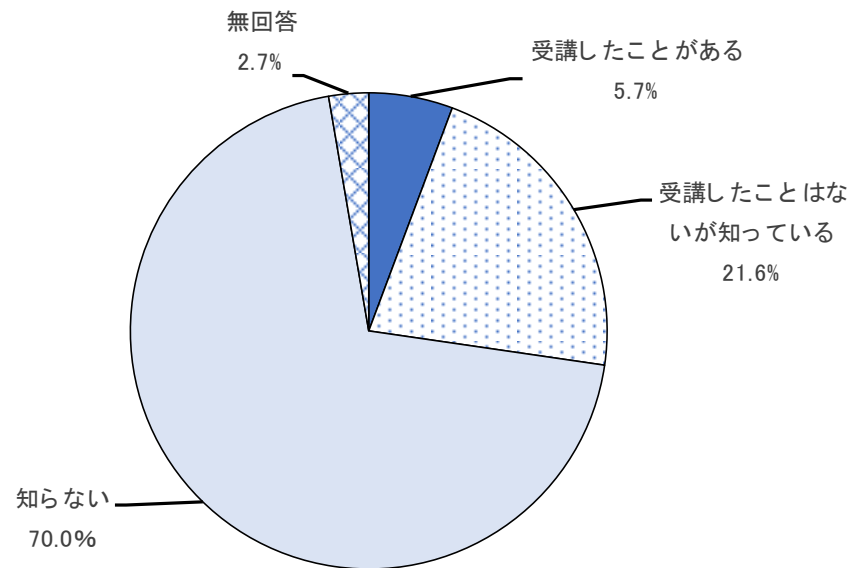
◆いきいき百歳体操



③認知症サポーター養成講座について

認知症サポーター養成講座について尋ねたところ、「受講したことがある」と回答した人の割合は 5.7%、「受講したことはないが知っている」と回答した人の割合は 21.6%となっています。

◆認知症サポーター養成講座

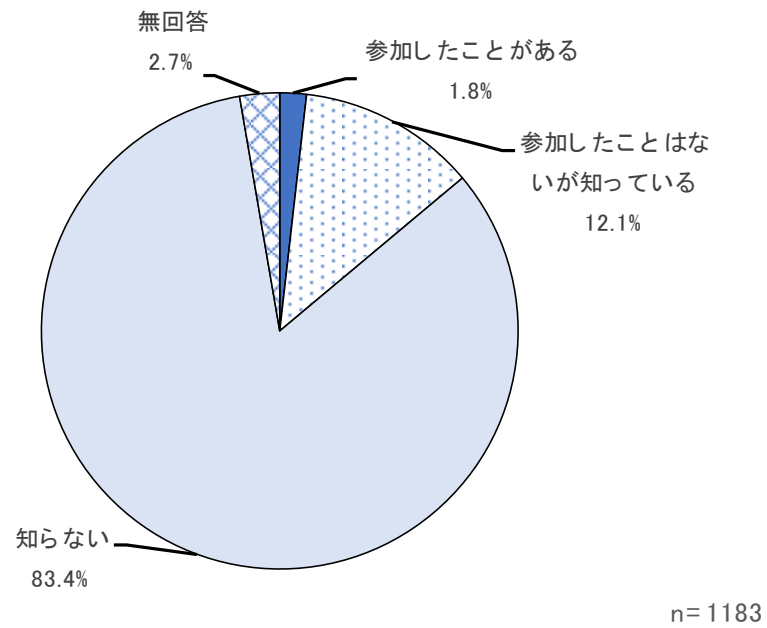


n= 1183

④認知症カフェについて

認知症カフェについて尋ねたところ、「参加したことがある」と回答した人の割合は 1.8%、「参加したことはないが知っている」と回答した人の割合は 12.1%となっています。

◆認知症カフェ



2 在宅介護実態調査（一部を抜粋して掲載）

第1章 調査の概要

1. 調査の概要

（1）調査の目的

「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点も盛り込み、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方の博方法等を検討することを目的とした在宅介護実態調査です。

（2）調査の設計

調査内容	国が示した「在宅介護実態調査票」に基づき作成
調査対象者	要介護1～5の高齢者
調査手法	市の調査員による認定調査対象者への聞き取り調査
調査の期間	平成30年11月～令和元年7月

（3）回収結果

本調査の回答数・有効回答数は以下のとおりです。

回答数(人)	有効回答数(人)
569	569

2. 在宅介護実態調査結果を踏まえた考察

(1) 介護者が感じる不安の内容

① 下松市における介護者不安の内容

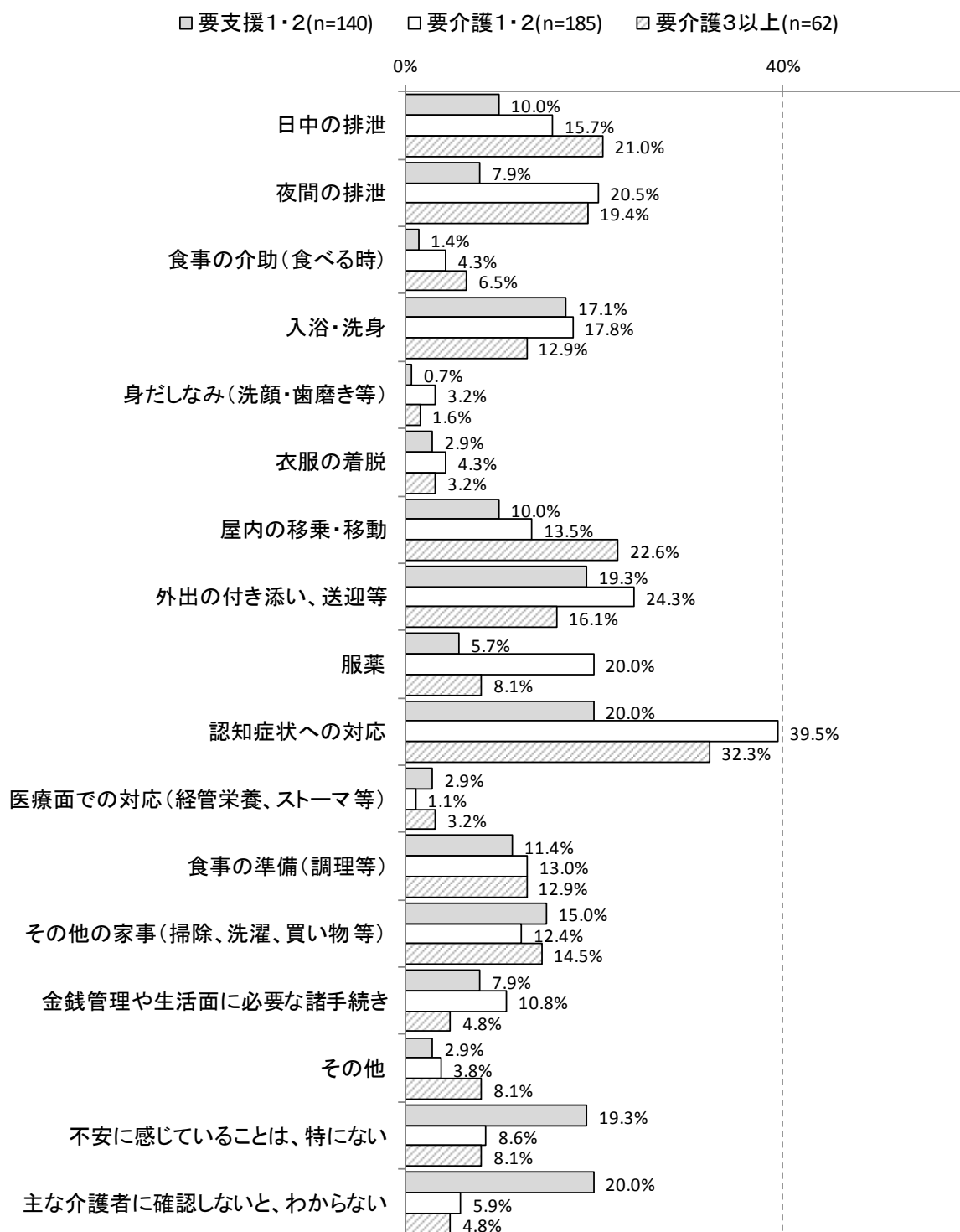
「認知症状への対応」は要支援1・2では20.0%が不安に感じています。要介護1・2になると、その不安感が約2倍の39.5%に急増しています。

※ 自立+ⅠからⅡにかけては「認知症状への対応」が約2.5倍もの不安増となっていますが、分析軸の特性上、自然な結果といえます。

全国的には、「認知症状への対応」に加え、「夜間の排泄」も介護不安が高い要素として捉えられており、これらをいかに軽減していくかが、在宅限界点の向上を図るための重要なポイントになると考えられます。

要支援1～要介護2で目立つその他の不安事項は、「外出の付き添い、送迎等」が挙げられます。要介護者の在宅生活の継続に向け、「認知症状への対応」と併せて「外出支援」を課題として位置付けていく必要があると考えられます。

◆要介護度別・介護者が不安に感じる介護



◆認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

